

やけやまだより

2018年
春号



文・写真：細川 哲也先生

日本で一番最初に咲く河津桜

静岡県は伊豆河津町の河津桜。

1月下旬から開花し始め、2月中旬から下旬にかけて見頃を迎えることから、日本で一番最初に咲く桜とされています。

私が訪れたのは3年前の2月末で、河津川沿いに咲く濃いピンクの桜花の下に、菜の花が帯のように咲き連なり、絵のような美しさでした。

新しい年への期待と広報紙発行に寄せて

皆様方におかれましては、つつがなく新年をお迎えになられましたことを、お喜び申し上げます。

呉やけやま病院では昨年の10月から療養病棟が稼働し、慌ただしい一年でありましたが、皆様方のご協力により、計画も順調に進み、新しい年を迎えることができました。

現代を生きる人々はストレス社会や高齢化などに関連して、様々なメンタルヘルスの課題に直面しており、精神科医療も多くの方が関心を持つ身近なものとなりました。

呉やけやま病院の医療の本質である、基本理念の「健全で健康な人生を応援します」という病院を目指すことには今後も変わりません。

ゆとりある療養空間で患者さま一人ひとりが持つ回復力を十分に引き出すことが、私たちの役割であります。

また、皆様方から、より一層のご理解を賜うことを目的に広報紙を発行することとなりました。

広報紙を通じて様々な情報をご提供させていただくとともに、より多くの方々から親しみを感じていただけるように努力していきたいと考え、年4回の発行（季刊発行）を予定しております。

真にこれからの時代に地域から求められる機能を備えた病院となるべく、職員一同今後とも努力を重ねていく所存であります。

本年も引き続き、皆様方の厚いご支援、ご愛顧をお願い申し上げます、発行のご挨拶とさせていただきます。

平成30年1月吉日
病院長 森 和彦



病棟紹介

2 病棟

作業療法やリハビリで生活能力の拡大に重点

2 病棟は、一般精神科の男女混合病棟です。病床数は 64 床、急性期からさまざまな精神疾患に対応できる精神科医療を実践し、個々の患者様に合わせた看護、集団作業療法やリハビリテーションの提供、身体機能の維持と向上を目指し、生活能力の拡大に重点を置いています。



朝のミーティング風景

3 病棟

多職種が連携して退院を見据えた治療を

病床数は 60 床。認知症治療病棟は厚生労働省が策定したオレンジプランに基づき認知症の精神症状（BPSD）が増悪し、在宅療養が困難となった患者様を積極的に受け入れ、多職種が連携し

て治療を行う病棟です。

患者様が入院された後は、専門的な薬物治療、非薬物治療（生活機能回復訓練、精神科作業療法等）が開始されます。治療開始直後より退院を見据え、患者様の退院後の生活をご家族と共に多職種で考えていきます。そして「患者様が落ち着いて笑顔で過ごせる」病棟を目指しております。

日本人の認知症の割合は今後も増加の一途をたどります。認知症の患者様が笑顔で暮らしているよう、呉やけやま病院は認知症の患者様とご家族をサポートしていきます。

1 月に 1 回、認知症カフェ（やまカフェ）も開催しておりますので、お気軽に呉やけやま病院に足を運んでいただきたいと思います。



↑ お茶会の一コマ
敬老会 →

4 病棟

日常生活の援助を行い地域移行を目指す

4 病棟は、精神科療養病棟です。大部屋が 5 床（2 室）、4 床（10 室）、2 床（1 室）、個室が 1 床（8 室）の計 60 床となっています。自然な環境の中で、少しでも早い自立を促すため、病棟スタッフは日常生活の援助を行っています。

慢性期で長期入院の患者様に対して、作業療法士・精神保健福祉士・訪問看護師など多職種



売店での買物

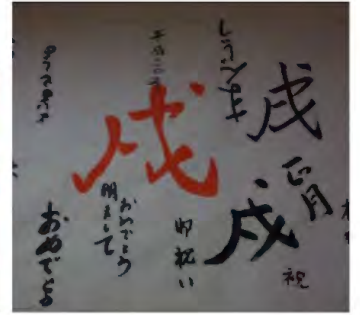
と連携をとり、患者様と共に地域移行を目指しています。

トピック

お正月は絵馬づくりと書き初めをしました

お正月の季節レクとして、絵馬づくりと書き初め大会を行いました。病棟内に安置した「呉やけやま神社」へ絵馬を奉納しようと懸命に取り組まれていました。

様々な祈願がありました。中でもご家族の健康と安全を祈願される方が多くいらっしゃいました。まさに、親思う心にまさる親心ですね。書き初め大会では、文字を書くことに自信がない方も参加しやすいよう皆で一言ずつ書いていく寄せ書き風に仕上げてみました。達筆な方が



多く、素敵な作品になり病棟内に掲示させていただきました。

3病棟（認知症病棟）では、四季の季節感を味わっていただけるようにと様々な行事、レクリエーションを実施しております。これからも患者様が安心して療養していただける環境を提供していきたいです。

< 3病棟 >

患者さまギャラリー



←お正月らしいめでたいタイです
ウロコの貼り方にも工夫しました



←60代の女性患者様が編みました
折る人、組み立てる人の共同作品です→

デイケアに参加しませんか！

精神科デイケア／認知症デイケア

精神科デイケアとは、つらい悩みや症状を抱えた方がグループ活動を通して、人との関わり方を学びながら、その人らしく地域の中で安心して生活できるよう、それぞれの目標や課題に取り組んでいく場所です。

一日の流れとして当院到着後、健康チェックやラジオ体操後に午前のプログラムがスタートします。

その後、昼食・休憩を経て午後のプログラムがスタートし、終了後ミーティングと掃除を行い帰路につきます。

プログラムの内容としては、社会生活技能訓練・運動系プログラム・創作系プログラム・院外活動・季節行事等を行っています。



以前よりありました【やまデイ】ですが、認知症の方や、その介護に当たっているご家族様、地域の方々のご要望にさらにお応えするため、昨年10月より新しく【デイケアやまデイ】として生まれ変わりました。

今後皆様のお声にお応えするためスタッフ一同頑張ってお応えします。よろしくお願ひいたします。

一日体験も受付けています。ぜひ、一度ご相談下さい。ご相談先はこちら・・・

080-3470-8153 (課長：宮迫)

080-4086-0634 (介護員：切田)



さばカレー



カレーの色素である、ターメリックには「クルクミン」という天然色素の成分が含まれています。ポリフェノール的一种でもあり、抗酸化作用が期待でき、肝機能の向上や、コレステロール値の改善、がん予防など、さまざまな効果が期待できるものと言われています。

そのクルクミンは認知症予防にも効果が期待されています。このクルクミンという成分が、認知症の原因となる病変の「アミロイドβタンパク」の凝縮や線維化を防いだり、すでに線維化してしまったアミロイドβタンパクの線維を分解したりするという研究結果も報告されています。

そのクルクミンを日常的に取り入れるオススの方法が、カレーにして食べることです。

今回はさばカレーをご紹介します。さばを使うことで、脳の活性化に役立つDHAやEPAも一緒に摂れるため、オススです。

<材料> 8皿分

- 玉ねぎ・・・2個
- 人参・・・1本
- じゃが芋・・・3～5個
- カレールー・・・1箱
- さば水煮缶・・・1～2缶
- おろし生姜・・・適宜

<作り方>

- ①野菜をたべやすい大きさに切る
- ④ルーが溶けたら、さば水煮缶を入れる
(お好みで、おろし生姜を入れると臭みが消えます)
- ②鍋に規定の水を張り、野菜を入れて煮る
- ⑤さばとルーがしっかりからんだら出来上がり
- ③野菜が柔らかくなったら、ルーを溶く

認知症サポートプレイス やまカフェ

当病院では、認知症に困っているご本人又はその方を介護しているご家族様、地域の皆様のお役に立てるよう、毎月認知症カフェを開催しております。ぜひ一度お越しください。
(ケーキやお飲み物もありますよ！)

毎月第3土曜日 14:00～16:00頃まで 参加費 200円

<今後の講座のスケジュール>

- 2月17日 外来看護師による「はじめよう、フットケア！」
- 3月17日 重度認知症デイケア職員による「当事業所、やまデイについて・・・」
- 4月21日 作業療法士による「やってみよう！ 認トレ！！」

地域移行連携部より

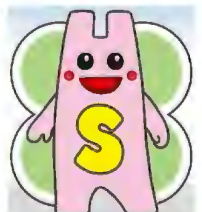
入院や受診相談など、何かお困りの際は
お気軽に呉やけやま病院 地域移行連携部まで
ご連絡ください。

【お問い合わせ先】
電話 (0823) 33-0511



医療法人健心会 呉やけやま病院

737-0924 広島県呉市焼山南1丁目8番23号
電話 (0823) 33-0511 (代) FAX (0823) 34-1366
ホームページでも当院の情報を発信しています。
呉やけやま病院で検索してください。



医療法人健心会マスコットキャラクター

ヘルスサポートくん